



# NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

# MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員数人 680人  
 医師 153人  
 コメディカル 527人  
 管理栄養士派遣登録数 39人

## 《目次》

日本糖尿病学会の抄録集をながめながら  
 調進一郎……………Page 1  
 研究会の実施報告等……………Page 2・3  
 研究会他のお知らせ……………Page 4

## 日本糖尿病学会の抄録集をながめながら

当研究会評議員 新川橋病院 調進一郎

5月23日から3日間、仙台で日本糖尿病学会年次学術総会が開かれました（本原稿を書いているのは開催前です）。参加された方も多数いらっしゃる事と思います。いかがでしたか？ 以前に比べて参加者数・演題数もかなり増え、抄録集も約2.8cmの分厚さです。託児所やインターネットコーナーもあり便利になりました。発表は9時前から始まり、昼はランチョンセミナー、夜はイブニングセミナーがあり、一日のプログラムが終わるのは20時過ぎです。まじめにすべてに参加すると毎日ヘトヘトになる事と思います。

学会では当研究会関係者の発表が多い事にいつも驚きます。会員の皆様の発表全てをチェックすることはできませんが、理事長から評議員までの当研究会の役員26人が関連した演題はざっと数えても53題！発表はもちろん医師だけでなく、看護師・薬剤師・栄養士さんなどの発表も数多く、頼もしい限りです。西東京地域の糖尿病の臨床・研究活動がいかに活発かを示す良い例だと思います。今回の発表では、貴田岡理事長が座長を勤め植木副理事長が講演されるランチョンセミナーも楽しみの一つです。お弁当を食べながら両先生のお話をお聞きするのも少し気が引けますが…。その他どれだけの発表を聞くことができるかわかりませんが、がんばって勉強して来ようと思っています。私も『αグルコシダーゼ阻害剤を開始した時に消化器系副作用が強く出る方は少ない方より血糖改善率が高い』という趣旨の発表をします。どうなることやら不安ですが。

学会に参加するといつも新鮮な刺激を受け、明日からまたがんばろうという気持ちになります。来年の1月26日には日本糖尿病学会の第45回関東甲信越地方会が開かれます。会場はすぐ近くの川越プリンスホテルです。皆様も是非参加してみてください。できれば聴くに行くだけでなく発表をしましょう！演題応募の締め切りは11月頃のはずです。まだまだ先の事なんてノンビリしているとあっという間に締め切り期日ですよ！



## 第4回 糖尿病スキルアップセミナー2007

かたやま内科クリニック 片山 隆司



2007年4月8日（日）武蔵野スイングホール（武蔵境）において第4回スキルアップセミナーが開催されました。当会も第4回を迎え、専門を問わず、糖尿病の知識と診療のテクニックを実地に学んでいただく会として認知されて参りました。

今回のテーマは「糖尿病合併症診療のABC」。3大合併症の管理とフットケアの実際を知っていただく企画です。前回から引き続き、医療スタッフとのペア参加も可という形をとりましたが、医師19名と共に、看護師9名、薬剤師1名、歯科衛生士1名と多くの方にご参加いただきました。

第一部（午前）は、講義形式で西田賢司先生の司会の下、総論を調進一郎先生、網膜症を藤井仁美先生、神経障害を名和知久礼先生、腎症を片山が担当し、最新の知識の整理を目指しました。昼休みには合併症診療に役立つ医療資材を紹介し、第二部（午後）は実践編として、今回の目玉であるフットケアを朝日生命丸の内病院の杉田和枝総看護師長にご担当いただきました。ビデオを見た後、実際のツールとテクニックをMRさんに患者役となってもらい披露していただきました。まさに目から鱗！参加者は興味津々で、熱のこもった実習となりました。最後は恒例の小グループでのディスカッション。各テーブルに専門医とCDEをチューターとして配置し、問題症例の管理・治療について大いに討論しました。午前・午後を通してのセミナーは今回も充実のうちに閉会となり、終了後にもっと長く時間をとって欲しい・・・と要望をいただけるのはスタッフとして嬉しいかぎりです。



半年に一回のこの企画。今後も皆さんと共にスキルアップを目指して参ります。次回にご期待下さい。

### 糖尿病スキルアップセミナー2007 コメディカルとして参加して

西東京糖尿病療養指導士 看護師 石黒 清美

今回のスキルアップセミナーは合併症についての勉強会でした。糖尿病に起こりやすい合併症はどれを取っても患者様のQOLを低下させるリスクの高い疾患ばかりです。多くの患者様は糖尿病という病気の説明をすると「足がくさる 透析、失明が怖い」などの不安を訴える方が多くみうけられます。恐怖心ばかり先行し、実際の糖尿病の理解や合併症にいたる過程を見失いがちです。その為、私たちCDEが基礎疾患合併症を常に勉強する必要がある事を痛感します。

今回、私はフットケアの実施指導を受けもたせて頂きました。最初に実際のフットケアの様子をビデオを使用しながら講義し、その後、実技に入りました。参加された先生方やコメディカルの方々の真剣な眼差し、時々溢れる感嘆の声に興味深さを強く感じさせられました。フットケアという処置を見るのは初めての方ばかりの様でしたので、実際の必要性を強く感じられた事と思います。前回の参加から1年が経ちますが、回を増すごとに内容の濃さと反響の大きさを痛感させられた一日でした。

CDEを取得しても職場で上手く活用できていない方も沢山みえると思います。私も何年前までは、どう活用して良いのか解らない毎日でした。西東京臨床糖尿病研究会の先生方はCDEの活躍の場や勉強する機会を沢山作ってくださいます。色々な会に参加する事により横のつながり、そこで得る刺激、職種という枠を超えてみんなで糖尿病を治すという1つの目標が生まれます。今回参加でき、とても勉強になりました。ありがとうございます。

## Seattle Diabetes Expo 2007”に参加して

高橋大悟（元緑成会病院 Seattle在住）

昨年秋、17年半の病院栄養士生活にひと区切りつけ退職。現在は勉強と充電を兼ねシアトルにきています。さて、4月21日（土）にシアトルのQwest Event Hallで開催されたADA（アメリカ糖尿病協会）主催の”Seattle Diabetes Expo 2007”に参加してきました。ADAによると、アメリカの糖尿病の患者数は現在2080万人。そして境界型や糖尿病の疑いがある人、血糖が高いことに気付いていない人は推定7000万人。これらを合わせた数字は、なんと総人口の30%にのぼります。ADAではEXPOを毎年全米18都市で開催。その他にも学校や医療機関での啓蒙活動、サイクリングやウォーキング、キャンプなどのイベントも積極的におこなわれています。



ファイザーのインヘイル型インスリンデバイス、EXUBERA®  
手前のアルミパックがインスリン。

EXPOでは新しい薬や食品の紹介をはじめ、スクリーニングやカウンセリング、料理教室など、治療をサポートするさまざまな催しが行われるのですが、今回のEXPOで一際人々の関心を集めていたのが、Pfizerのインヘイル（吸入）型インスリンデバイス、EXUBERA®（エクスペラ）。さっそくデモをしてもらいましたが、使い方はいたって簡単。食事の10分前に使用。デバイスを上下に伸張させ、アルミパックのインスリン製剤をセットし、スイッチ

兼のグリップを握って吸入するというもの。まさに1、2、3の手軽さです。インスリンの種類は超速効型で、単独使用あるいは持続型インスリンや内服との併用が可能。もちろん1型糖尿病と

2型糖尿病のどちらも対象となります。デバイスが大きい、コストが高い（現地価格は180ドル）などの観点から、まだ当分は注射に代わる存在までにはならないとの見方もありますが、やはり簡単で痛みのないこの方式に寄せる人々の期待は大きいようです。事実、来場者にインタビューしてみたところ、「毎食前の注射に対する心理的負担は大きいので嬉しい」「使い方が簡単でよい」旨の回答をされた方は、10人中8人いらっしゃいました。現時点での発売はまだ同社1社のみですので、今後他社の参入により、前述の問題点も少しずつ改善されていくのではないかと思います。

その他、イベントでは日本とは違う特色を見ることができました。例えば、肥満大国アメリカを象徴していたのが、歩行補助具。体重を支えきれず歩行が困難な方のためのものですが、実際に車いすやこれらの器具を使っている人は、街中でも頻繁に見かけます。また甘いものが大好きな国民性を映すかのごとくデザートブースが多かったり、他民族国家らしくスペイン語やアラビア語など他言語の資料や教材があったりするなど、アメリカならではの糖尿病療養を垣間見ることができました。お国が違えば事情もアプローチも違いますが、「より豊かな人生を」という目指すゴールは皆同じ。違う文化背景の中から数多くの発見があり、今後の大きな収穫となりました。



肥満大国のアメリカらしい、歩行補助具。片膝をサドルにのせ、反対の足で漕いで進むタイプ。



# 研究会他のお知らせ

・ 直接事業 ・ 間接事業

- ・ NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 第41回 例会・総会** (※お申し込み不要です)

開催日 : 平成19年6月2日(土) 例会 14:00~17:30  
 総会 会員のみ 13:10~

場所 : 多摩永山情報教育センター (京王線・小田急線 永山駅下車徒歩5分)

参加費 : 会員 無料 一般 1,000円

テーマ「21世紀の糖尿病管理」～早期診断、早期指導のために～  
 講演 「糖尿病・メタボリックシンドロームと実地医家の役割」  
 国立大学法人富山大学附属病院長 小林 正先生 他

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位 : 7単位
- ・ 第6回 西東京CDE研究会 総会** (※お申し込みが必要です。)

開催日 : 平成19年7月7日(土) 15:30~19:30

場所 : 多摩永山情報教育センター (京王線・小田急線 永山駅下車徒歩5分)

特別講演「糖尿病療養指導士における地域での活動」  
 石橋クリニック 石橋 幸滋先生

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位 : 7単位
- ・ 第4回 西東京糖尿病療養指導研修会** (※お申し込みが必要です。)

開催日 : 平成19年7月29日(日) 参加費 : 5000円 (昼食代込み)

場所 : 東京農工大学小金井キャンパス (JR中央線東小金井駅下車10分)
- <教育看護系> 第4回 西東京糖尿病教育看護研修会**

(L0026・定員:315名 9:40~17:05予定)

特別講演「糖尿病患者さんの気持ちに寄り添うアプローチ」  
 講師: 福井大学医学部看護学科 教授 安酸 史子先生 他
- <病態栄養系> 第4回 西東京病態栄養研修会**

(L1321・定員:240名 9:55~17:20予定)

特別講演『栄養指導に必要な患者心理の理解』  
 講師: 天理よろづ相談所病院 内分泌内科部長 石井 均先生 他
- <薬剤系> 第4回 西東京薬剤研修会**

(L1331・定員:240名 9:50~17:35予定)

テーマ『(仮)糖尿病の眼の合併症』  
 講師: 杏林大学医学部附属病院 眼科准教授 井上 真先生 他

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位 : 10単位申請予定  
 ※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位(1群) : 2単位申請予定

参加受付: インターネットより受付 URL: "http://www.nishitokyo-dm.net/whatsnew.html"
- ・ 第1回 西東京運動指導体験セミナー**

開催日 : 平成19年9月29日(土)~9月30日(日) 1泊

場所 : 高尾の森 わくわくビレッジ

※詳細については同封のチラシをご覧ください。

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局

〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 リエント'ラ' 402

TEL: 042(322)7468 FAX: 042(322)7478

http://www.nishitokyo-dm.net Email:w\_tokyo\_dm\_net@ybb.ne.jp

